

米国 製造業部門のモメンタムは緩やかに鈍化

(06年9月ISM製造業景気指数)

発表日：2006年10月2日(月)

～新規受注・在庫比率が上昇していることからISM製造業景気指数は10月に一旦上昇する可能性～

第一生命経済研究所 経済調査部

桂畑 誠治(かつらはた せいじ)

(03-5221-5001 : seiji@dlri.dai-ichi-life.co.jp)

ISM (the Institute for Supply Management) の推移

	総合	生産	雇用	在庫	入荷遅延	新規受注	受注残	仕入価格	輸出受注	輸入
06/01	54.8	56.6	51.3	46.5	55.3	58.0	53.5	65.0	58.5	57.0
06/02	56.7	57.4	55.0	49.6	52.2	61.9	54.5	62.5	57.0	57.5
06/03	55.2	57.5	52.5	48.7	53.1	58.4	59.5	66.5	57.3	57.0
06/04	57.3	60.4	55.8	51.3	57.7	57.6	57.0	71.5	53.4	59.0
06/05	54.4	57.2	52.9	48.0	57.6	53.7	53.0	77.0	55.7	56.5
06/06	53.8	55.1	48.7	46.9	55.0	57.9	54.0	76.5	55.4	56.5
06/07	54.7	57.6	50.7	50.5	55.4	56.1	50.5	78.5	51.9	57.5
06/08	54.5	56.6	54.0	50.2	55.0	54.2	51.5	73.0	55.7	54.0
06/09	52.9	56.1	49.4	46.4	54.1	54.2	46.5	61.0	55.3	56.0

52.9と前月比1.6 ポイント低下

06年9月のISM製造業景気指数は、52.9と前月から1.6ポイント低下し市場予想の53.5を下回った。指数を構成する5項目の前月からの変化をみると、新規受注が横ばいにとどまった一方、雇用、生産、在庫、入荷遅延が低下した。ただし、低下幅が小さく、拡大した業種数が20業種中12業種(前月9業種)に増加しており、製造業部門モメンタムは緩やかに低下している。また、依然として水準が高いことから、製造業部門は堅調さを維持していると判断される。

先行きについては、新規受注が横ばいにとどまり在庫が大幅に低下したため、ISM製造業景気指数に1、2ヵ月先行する新規受注・在庫比率が低下しており、ISM製造業景気指数は10月に上昇する可能性が高い。ただし、その後も需要の鈍化、それに伴う在庫調整によって、製造業部門のモメンタムは2007年前半にかけて緩やかなペースで鈍化傾向を辿ると予想される。

製造業受注・生産統計の鈍化傾向持続を示唆

個別にみると、生産の拡大した業種数は10業種(前月9業種)と小幅増加し41ヵ月連続で50を上回った。しかし、生産指数は前月から0.5ポイント低下したうえ、2月をピークに水準が切り下がっていることから、製造業生産(FRBベース)は11月にかけて3ヵ月移動平均・3ヵ月前対比年率で拡大ペースが鈍化すると予想される。

新規受注指数は41ヵ月連続で拡大縮小の分岐点である50を上回り、前月と変わらずとなった。加えて、拡大した業種数が11業種(前月7業種)と増加した。もともと、新規受注指数は6月の57.9をピークに水準を切り下げているため、製造業受注(商務省ベース)の拡大ペースは11月にかけて3ヵ月前対比年率で鈍化傾向を辿ると見込まれる。

在庫は抑制的に

在庫面では、在庫指数が46.4と前月から3.8ポイント低下し、在庫を増やした業種数も

20業種中4業種（前月7業種）と減少した。

新規受注と同時に在庫が増加する前向きな在庫拡大が2業種（前月5業種）に減少していること、一方受注が増加するなかで在庫の減少した業種数が7業種に増加したことから、製造業は在庫の積み増しに慎重になっていると判断される。このため、新規受注が減少するもて在庫が増加する、悪い在庫増となった業種は2業種（前月2業種）にとどまっていることから、深刻な在庫調整に陥るリスクは小さい。

**貿易赤字は高水準
持続**

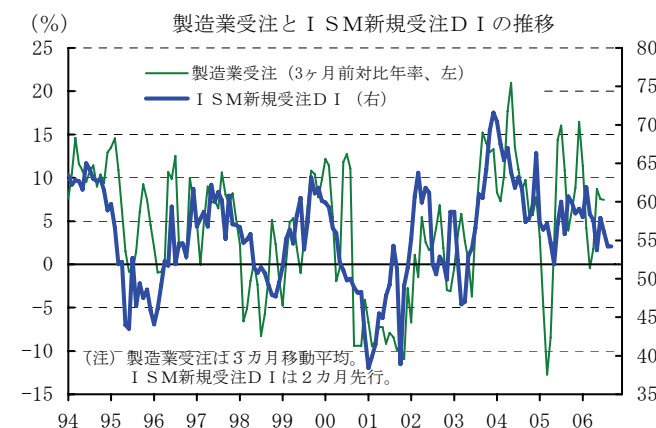
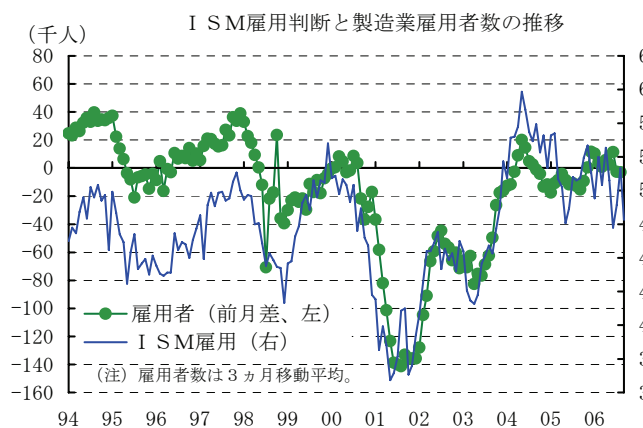
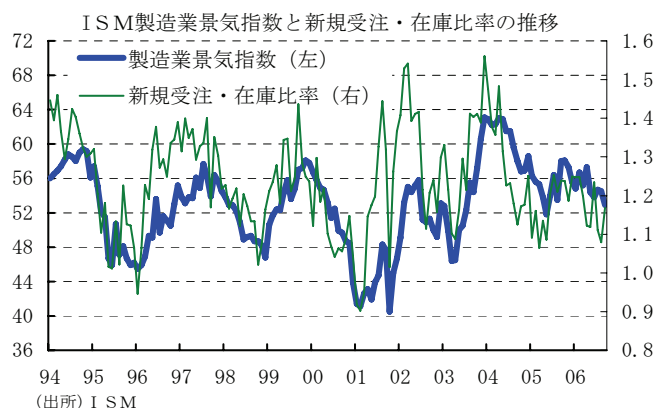
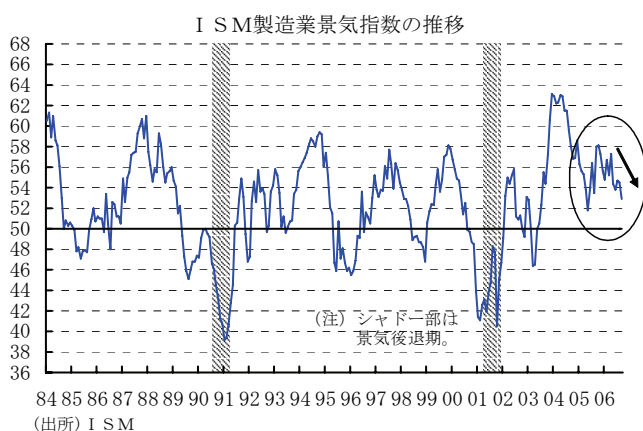
外需に関しては、輸出受注は55.3と前月の55.7から小幅低下にとどまったものの、通関統計に3ヵ月先行する3ヵ月移動平均で3月をピークに低下していることから、輸出（通関ベース）は8月以降伸びが鈍化しよう。一方、輸入指数は56.0と前月の54.0から小幅上昇し、高い水準を維持した。このため、通関ベースでの輸入の増加ペース加速を示唆していることから、貿易赤字額は高水準で推移する可能性が高い。

**製造業雇用は減少
に転じる可能性**

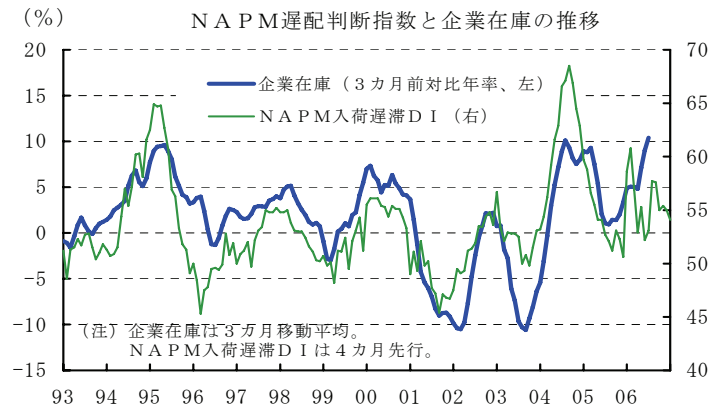
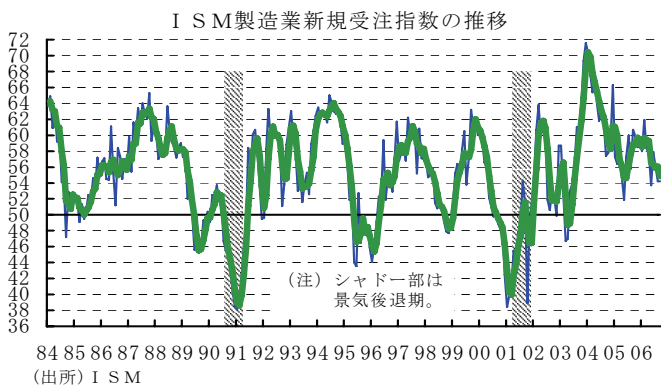
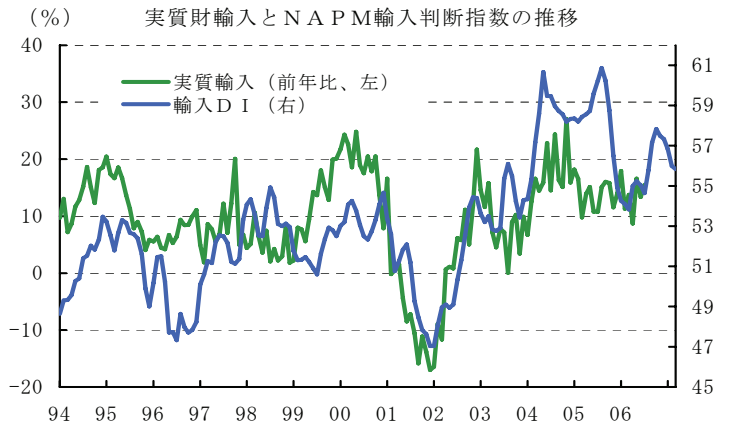
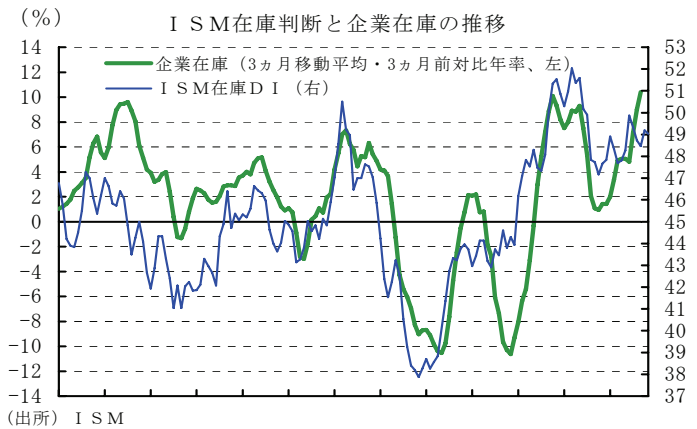
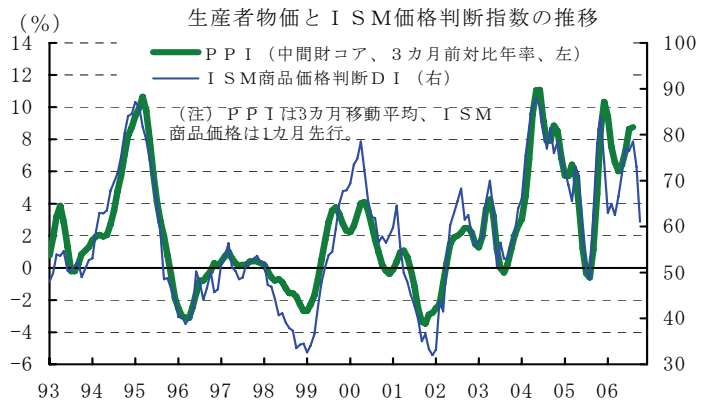
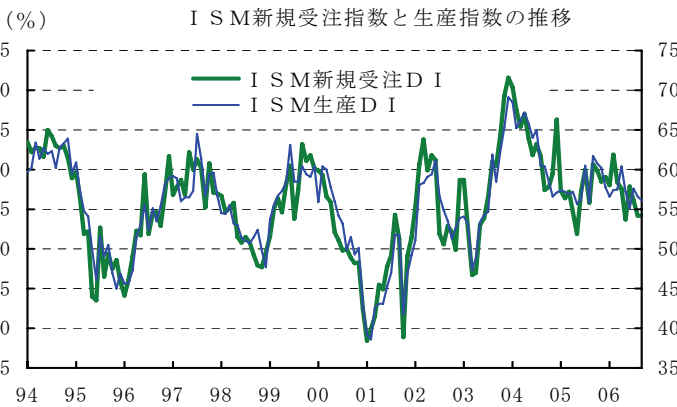
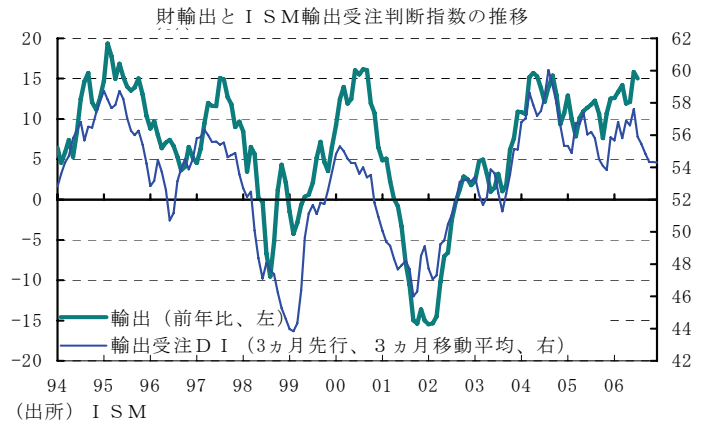
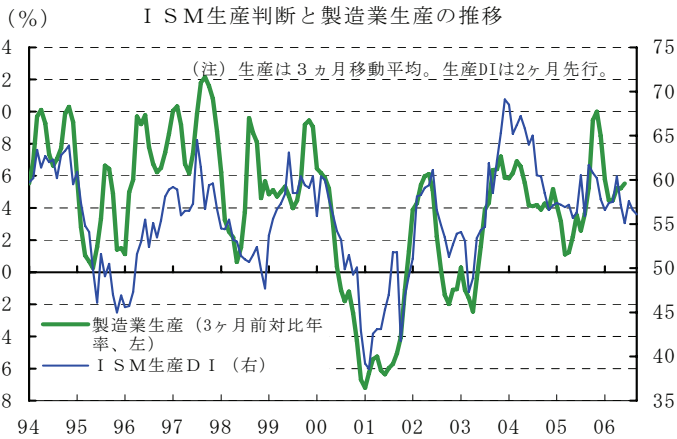
雇用関連では、雇用指数が49.4（前月54.0）と低下し増加した業種が5業種と前月の8業種から減少したことから、製造業雇用者数（3ヵ月移動平均）は10月に減少する可能性がある。

**目先川中での物価
上昇圧力が緩和する
公算**

物価面では、商品価格指数（仕入れ価格）は61.0と商品価格やエネルギー価格の下落によって、前月から大幅に低下した。このため、商品価格指数に遅れて動く傾向があるPPI（中間財コア）は9、10月に3ヵ月前対比年率で伸び率が鈍化する可能性が高い。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であると限りません。